


「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告 令和7年11月8日～令和8年3月19日

活動名	天霧山・二反地川・瀬戸内海・弘田川・さぬき富士・五岳山ビューポイント創出活動(心のオアシス編)	
活動団体名	舟岡山未来プロジェクト活動組織(環境保全隊、子育て隊、舟岡山・弘田川ラグーン研究会) 共創 ボート隊・釣り隊・青年隊・海外隊、新隊 (各隊の持つ自然治癒力の想いをつなぐ)	
活動目的	<ul style="list-style-type: none"> ・57年前の舟岡山頂上(香川県 仲多度郡 多度津町 山階)からの360度パノラマを取り戻すこと。 ・自然環境の役割を考え、里山・里地・田地の継承するシステムを考え、古家・空き家に再明かりが灯るイメージを見つけ出すこと。(現在進行形の共通目標の創出活動の心髄です。)= スマイルポイント 	
活動内容	<p>①これまでの活動域の草刈り、枝処理の維持をしつつ、新区域の真竹・女竹域の密生部の皆伐をし、竹紛化しました。障害木の伐倒、強風による古桜の倒れも生じ、緊急の活動も多分にありました。</p> <p>②休耕田におけるヒマワリ畑は11月にもこぼれ種から開花し、3度咲となり気候変動を感じます。</p> <p>③倒壊薬師堂の残骸の掘り起し処理・片付け・整地に着手しました。今期は「次や。」の準備期です。</p>	
活動写真		
写真説明	協定域内の放置50年の竹やぶとの格闘初年竹粉の頂上への道。もう一步進んでみようか。	鎌倉期薬師堂倒壊放置20年地の整備準備へ青年の手による薬師堂 SAKAN Project へ繋ぐ。
活動効果	<ul style="list-style-type: none"> ・園児植栽のエニシダ、山桜の植栽に続き、ツツジ系記念植樹も今年度活動の節目として2株植栽しましたが、開花という即効果はまだ先のこと、まだ見ない未来への活動と私たちは捉えています。 ・小学生数人が明るくなった舟岡山内で工夫して遊び始めました。「自分の頭で仲間とともに考える人になるであろう。」という、うれしい気持ちになります。自然のめぐみのすそ野は実に広いと感じます。 	
今後の展望	<p>①過疎化地域の方々が、「どうしたいのか」言語化はできないと思いますが、「こうしたい」と漠然とおもっていることが私たちに伝わってきています。協定域外の舟岡山の地主さんの自然の治癒力が動き始め、枯れ木・枯れ竹の伐採が協定域外でも始まりました。正解はひとつではないと見ています。</p> <p>②舟岡山の地域に住所地を持たない地域外支援者が構成員の8割強を占めているため、次年度を自走化の分岐点としています。マーケティング・ポテンシャル分析を見直して新たなコンセプトづくり・事業計画を考えます。未来世代との連帯・協働が、これまで以上に重要な vision を持つと考えます。</p> <p>③初めてですが、海活動・里地活動・山地活動と分散している自主活動団体にて、共通の目標に向かう場の2026年度多度津歴史文化講演会(4回講演予定)開催に舟岡山未来プロジェクト(郷土史研究・舟岡山・弘田川ラグーン研究会)も協力いたします。昔の郷土史考察からお互いを認め合う受容力が生まれることと思います。この地においても「居住人口ではなく、地域の担い手がない。」と正直に語る方々が出始めたスタート地点ですので、多様な分野の方との実践が必要な段階に到達したと判断します。</p> <p>④舟岡山の協定域内の手つかずの斜面の整備に着手し、ちっちゃな山の周遊みちが完成します。</p> <p>⑤薬師堂 SAKAN・Project と周囲の手作りの造成は、新しい民話の再生装置のエネルギーを秘めるように仕掛けます。お薬師さんの見渡す山波里・川・田(ヒマワリ元気作戦は継続)の景色は共通言語になるかと思っています。①⑤により新たなスタートアップのライフスタイルが生まれることをみつめます。</p>	